

プレゼントするのは自分のため

習った作品にひと工夫を

面白いストーリーを考えよう

コロナ禍はますますひどくなるばかりですが「朝の来ない夜はない」。来るべき教室再開の日に備え、七夕でひよどり台小学校にプレゼントする折り紙は作ってくれていますか？

●主役はあなたです

こういう問いかけや考え方をするとどこか義務になってしまい、面白くないと思います。折り紙を折る時に共通することですが、あくまで自分の練習したもの、または従来習ったものにひと工夫加え、ちょっと目新しい作品に仕上げた、その成果を子どもたちに見てもらい、喜びを分かち合おうという気持ちで気楽に作っていただければ十分です。主役はあなたです。今、折り紙に取り組んでいるあなたが主役ということを決して忘れないでください。

小学校へのプレゼントを考える時、ちょっとしたストーリーを考え、それに沿って作品群を仕上げていくと楽しさが倍増します。例えばパンダさんが好物の笹で舟を造り、舟遊びを楽しんでいるとしたらどうでしょう。「満月」の明るい光の中でキツネとたぬきが、どんな会話を楽しんでいるか想像するのも楽しいですよ。カニに貝殻をあしらえば浜辺の光景が浮かんで来るなど、いくらでも子どもたちが喜ぶストーリーが出来ます。「七夕」に飾るのはこうあらねばならないと考える必要は全くありません。発想を自由に広げる方がより楽しいプレゼントになり、子どもたちもより喜んでくれるはず。頭の体操と思って、いろいろ試してみてください。

おとなの折り紙オリガミアン

代表 熊谷 信哉 (生環24期 須磨区)

1.主旨

人生100歳時代。家の中に籠ってはいはボケるだけ。そこで外の世界へ飛び出し新しい人間関係の中で頭と指を使う折り紙を練習しようと思立ち、クラブを立ち上げました。折り紙は社会的な娯楽と思っています。一人で楽しむよりも、覚えた作品を周りの人に受け取ってもらおうと相手は「ほっこり」した気分になります。クラブの正式名称は「おとなの折り紙オリガミアン おしゃれを折り伝える」にはそういう思いを込めています。



2.活動概要

コロナ禍の影響で発会式・初練習は昨年7月7日まで棚上げされました。定期練習会場はシルバーカレッジからさほど遠くない「ひよどり台交流プラザ」。幼稚園の跡で昭和レトロの雰囲気がいっぱいです。会員はシルバーカレッジの卒業生と一般の方がほぼ半々で、現在の会員は14人。月2回、第1、第3火曜日の午前中、活動しています。練習テーマは創作折り紙に絞っています。教室での練習日当日はマン・ツー・マンで教え、高齢者が対象ということに十二分に意識して復習に力を入れています。

これまで取り上げたものはパンダ、カニ、ワンピース、クリスマス用の樅の木、サンタ、トナカイ、金色の鶏、孔雀、鬼の顔、きつね、狸など多岐にわたっています。

コロナ禍で休会となることが多いことを見越し「ステイホーム」に対応した会報「オリガミアンだより」の発行も重点項目の一つとして取り組んできました。昨年4月から1年間で38号(A4判)のべ71頁を発行。作品の折り図紹介のほか、折り紙周辺の話も取り上げています。

3.今後の計画

七夕とクリスマスには会員が折り貯めた作品を会場の隣のひよどり台小学校児童にプレゼントしましたが、新年度からは、これをクラブの正式なボランティア行事と位置づける予定です。

高齢者に教えやすく、かつ彼らが家族やお孫さんたちに披露してええ格好出来るテーマが望ましいと考えています。今後も話題性があり、タイムリーな作品を見つけて楽しく仲良くやっています。ただ生まれただけのヨチヨチ歩きクラブですので、あまり拡大路線は取らず、基礎的な実力をつけるよう着実に歩んで行くつもりです。

【連絡先】代表：熊谷信哉

e-mail : gonjuu.777@kuma.zaq.jp

「わ」の機関誌「ぎやらりー わ」No.93(2021年4月号)の「新設グループ紹介」欄に、「おとなの折り紙オリガミアン」が人形劇「ゆめのつづき」とともに掲載されました。